



【参考資料】

令和元年度 地域福祉活動 事例集

社会福祉法人高知市社会福祉協議会



「ほおちょけん」のひとづくり

ふくしの心を育む



ほおっちょけん学習の実施

【取り組み実績】（令和元年12月末現在）

- 保育園9園（内、予定2園）
- 小学校10校（内、予定4校）

保護者への働きかけ

啓発

子どもたちが学んだ内容を家庭で話題にしてもらい、保護者の方にも福祉に関心を持ってもらうキッカケづくりを行う。

受講記念



ほおっちょけんシール



保護者向けチラシ



おもいやり

ペットボトルの蓋を開けにくそうにしていたら手伝ってあげたいと思いました。

気づき

大きな声でゆっくり話をすれば、お年寄りも聞きやすいと思います。

ほおっちょけん学習 地域とつくる オーダーメイド学習

共育

発見

白っぽく見える！
声がかもって聞こえる！

周りの人のどんな工夫が必要かなあ？
ぼくたち、わたしたちにもできることって？

わたしたちも元気
をもらっています！

みんなは
地域の宝物！



みんなの安全を見守っているよ！

※令和元年度 参加した住民

延べ63名

ほおっちょけん学習サポーターの養成へ

プログラム(例)

- ◆高齢者の理解
高齢者体験
目：白内障体験
耳：難聴体験
手：把持力低下体験
- ◆思いやりの気持ちの醸成
高齢者に対して自分たちにもできることについて考える。
- ◆地域住民との交流（ともに学ぶ）
（民生委員，主任児童委員，地区社協等）
お話や戦隊ヒーローへの変身，寸劇等，工夫した内容で実施。
- ◆自他を大切にする学び
「助ける」「助けられる」おたがいさまの意識を育てる。



目の体験



耳の体験



手の体験



発表



「ほおっちょけん」のまちづくり

ひとがつながる場づくり

身近な生活の困りごとについて考える“話し合い”の場づくり

強み・弱みの共有から連携・協働の体制づくり

事例【地区社協・地域内連携協議会 合同研修会】

■高知市小高坂地区 総人口:9,172人(65歳以上人口:2,837人, 高齢化率:30.9%)

地域内の各種団体や専門機関(病院)の「強み」と「弱み」を共有し、コラボできそうなことを考えてみる。

→ 組織間の連携促進によって、活動の活性化と担い手不足の解消を図る。

平成30年度 小高坂地区社会福祉協議会研修会

担い手づくりどうしよう？

次世代育成
引継ぎ
交流
人材発掘

連携
協働

若い世代の担い手不足や地域団体役員の高齢化など、次世代の担い手発掘・育成は小高坂地区各団体共通の課題となっています。そこで、中央高知市社会福祉協議会では各団体や協議会との連携で担い手に関する研修会を実施しました。各団体との情報交換や交流を通じて地区全体で担い手育成について考えてみませんか。お忙しい中とは存じますが、皆様お集まりあわせのよ、ぜひご参加ください。

日時:平成30年 12月3日(月)
18:00~20:00
*研修終了後、懇談会を予定しています。
場所:小高坂会館(高知市大塚町1-30)

内容:担い手発掘・育成について
高知市社会福祉協議会
高知市社会福祉協議会
高知市社会福祉協議会
各団体情報交換
※ 中央高知市社会福祉協議会事務局の紹介です

主催:小高坂地区社会福祉協議会・小高坂地区各種団体連携協議会
協力:連絡先 高知市社会福祉協議会地域活動課(赤野 尚陽)
Email:nagano@hochi-tsuar.jp TEL:085-856-5339 FAX:無印(事務局)



【コラボ企画】

しばてんまつり～**ごちゃまぜでえいやんか**～

- 会場は小学校の体育館
- ステージ発表では県立盲学校の生徒も発表
- 模擬店は高齢協・青少協・専門機関(病院)が中心に運営

共通のシートを用いて組織ごとの「強み」「弱み」を整理

他組織のシートを眺めながら自分の組織と
コラボ出来そうなことについてアイデア出し

参加された方の中には、独居高齢者も多数

ニーズはあるが、地区の敬老会は休止中

今後は、民児協の協力を得て、敬老イベントの要素も含む？

団塊世代の「仲間づくり」から「生活支援」へ

事例【土佐いっく成年団の取り組み】

■高知市一宮地区 総人口:25,495人(65以上人口:6,757人, 高齢化率:26.5%)

交流

「楽しめること」で仲間づくり

- 地域デビュー講座の開催
スマホ教室, バルーンアート,
葬儀, ビールの話, 老後のお金の
話 等々
- 共同農園の取り組み
- 農園で採れた作物を使った収穫祭
- ボーリング大会
- プレミアムフライデー



学び

「地域課題」について学習・協議

- 一宮地区の現状
基礎データ(高齢化率等)
 - 地域共生社会について
 - 一宮地区の生活困窮者の現状
 - 一宮地区の高齢者の現状
 - 障がい者の通所事業所との交流
- ▼
- 自分たちが実施するボランティア活動について意見交換。一宮に必要なボランティアとは?



活動

「できる範囲」でボランティア

- 施設慰問
高齢者施設, 障がい者施設
- 認知症予防カフェ運営補助
一宮ふれあいカフェ
- 生活支援ボランティア
生活困窮者自宅清掃支援, 高齢夫婦ゴミ出し支援, 独居高齢者不燃物搬出支援, 独居高齢者宅電球交換支援



「共通の話題」から広がるつながりづくり

事例【百歳体操会場の横のつながりを意識した話し合いの場づくり】

■高知市朝倉地区 総人口:27,758人(65以上人口:7,891人, 高齢化率:28.4%)

朝倉地区福祉委員の歩み

各会場の
「困っていること」

2017
始動!

STEP①

福祉委員の集い開催

- 近況報告を通じて委員同士の交流を深め、今後も定期的に集まって情報交換をしたい。

朝倉地区内のいきいき百歳体操お世話役交流会



STEP②

自分たちにできること検討

- 福祉委員6名のうち全員が百歳体操の運営に関わっている。各会場の困りごとや工夫している点について情報交換をしたい。

【うちの会場でやっていること】

- ・体操の前後でサロン(お茶会)
- ・季節のイベント(花見・忘年会など)
- ・独自の早口言葉をしている
- ・年間一番参加した人には商品を用意
- ・各種出前講座を活用している

【体操参加者の声】

- ・みんなと話をできるのが嬉しい
- ・体操をつづけることで元気になる
- ・情報交換の場になっていて楽しい
- ・身だしなみを整えるなど生活にメリハリがつく

【困っていること(みんなからアドバイス)】

- ・体調不良の方が出た時の対応(緊急時の連絡先をどうするか?)
- ・体操会場への助成金の有効な使い道
- ・正確に体操が出来ているか不安(体操の効果が上手く伝わらない)(体操の効果を感じられる機会がほしい)
- ・参加者が少ない(増加に向けたアイデア欲しい)
- ・男性参加者が少ない&継続しない

STEP③

百歳体操世話役交流会

- 福祉委員がかかわっている百歳体操会場だけでなく、朝倉地区の全会場に周知してお世話役さんの交流会を企画。

体操会場の繋がりが生まれるような場づくりを仕掛けることで、お世話役の活動をサポート

「一人の課題」から「地域の課題」へ

事例【いきいき百歳体操会場を切り口とした支え合いの仕組みづくり】

■高知市愛宕町1・2・3丁目 総人口1,601人(65以上人口:565人, 高齢化率35.3%)

個人の悩み

- 可燃ゴミを出せない独居高齢者
- 担当のケアマネより生活支援ボランティアの依頼
- ▼
- 近隣の百歳体操会場のお世話役に協力依頼
- 担当のケアマネ・ヘルパーとお世話役が集まり, 対応を協議(役割分担)
- 支援ニーズとボランティアのマッチング
- 週1回のゴミ出し支援を実施

課題の一般化

百歳体操



地域の悩み

- 同様の課題を抱える個人の把握
- 独居高齢者を孤立させない地域づくり
- ▼
- まずは, 孤立しがちな独居高齢者を把握し, 百歳体操への誘い出しを行うべく, マップづくりを実施
- 役割分担し, 対象者に対して個別訪問を実施(チラシ配布)
- 訪問した内容について共有

体操参加者の何気ない声からニーズを拾えるような意識づけ

「ほおっちょけん相談窓口」との連携

社会資源マップの作成

「災害」を切り口とした支え合いの仕組みづくり

事例【八反西自主防災会 避難行動要支援者対策の推進】

■ 八反町1・2丁目 総人口1,501人(65以上人口:365人, 高齢化率:24.3%)



防災の視点

- 名簿同意者のマッピング
※同意者36名(対象者61名)
- 避難支援者(になれそうな人)をマッピング
- 避難支援の内容について確認
- 身体状況について確認
- 個別訪問の実施(ヒアリング)

災害時に必要な支援
提供体制の整備

避難行動 要支援者対策



福祉の視点

- 名簿同意者の生活ニーズの把握
(買い物・食事・ゴミ捨て 等)
- 個別訪問実施の際に、生活ニーズについてもヒアリングを実施
- 集約したニーズを元に、町内会として出来ることについて意見交換(予定)
- 同意はしてないけど「気になる人」の把握とかかわり方について意見交換(予定)

埋もれている生活支援ニーズ
特定

「避難行動要支援者」の中には「生活支援ニーズを抱えている人」も多い

「災害」を切り口に「誰もが安心して暮らし続けられる地域」を考える

「ゲーム感覚」で地域ニーズの掘り起こし

事例【百歳体操会場で「助け合い体験ゲーム」の実施】

■「ニーズと担い手の掘り起こし」キット

生活支援コーディネーター・協議体にかかわる方々が助け合いの地域づくりに取り組む際に、助け合いの理解促進、地域ニーズ及び担い手の掘り起こしを進めるためのツールとして、公益財団法人さわやか福祉財団が開発したもの。

■ワークショップ 第1部「近隣 助け合い体験」

- ①60種類のカードから
「自分が助けてもらいたいこと」を選ぶ
- ②カードをもとに交渉する
「誰か私の困りごとを助けてくれませんか」
- ③グループ内で気づいたことを共有
「助け上手な人」と「助けられ上手な人」
- ④まとめ
「解決出来なかった困りごとは、
どうすれば解決できるか？」

【グループに分かれて意見交換(塚ノ原公民館)】



■多かった困りごとTop3

- ◎草引き
- ◎包丁研ぎ
- ◎家具などの重い物の移動

■参加者の感想

- 高齢者の困りごとの把握が手軽にできる(お世話役)

キットは3部構成になっており、ワークショップ形式で活用

- 1部「近隣助け合い体験」
- 2部「ニーズの掘り起こし」
- 3部「担い手の掘り起こし」